

「米国・カナダの輸出プログラムにより管理された牛肉・内臓を摂取する場合と、我が国の牛に由来する牛肉・内臓を摂取する場合のリスクの同等性」に係る食品健康影響評価について

### 新旧対照表

修正箇所	新 (12月8日)	旧 (11月2日)	修正理由
3 頁、16 行目	要 <u>請</u> 事項	要 <u>望</u> 事項	誤記のため、修正。
5 頁、22 行目	人の健康に及ぼす影響	人の健康 <u>危害</u> に及ぼす影響	正確な表記に変更。
14 頁、20 行目	国内牛の暴露・ <u>増幅</u> リスクを評価する場合	国内牛の暴露リスクを評価する場合	正確な表記に変更。
18 頁、4 行目	<u>開始</u> した	<u>実施</u> した	正確な表記に変更。
20 頁、13 行目	24 ヶ月 <u>齢</u>	24 ヶ月 <u>例</u>	誤記のため修正。
22 頁、7 行目	<u>3</u> 頭/11万頭	<u>2.9</u> 頭/11万頭	正確な表記に変更。
22 頁、18 行目	3/8 万頭×90 万頭	3/8 万×90 万頭	誤記のため修正。
25 頁、21 行目	食肉検査官が	食肉検査官( <u>文献</u> )が	誤記のため修正。
27 頁、9 行目	と畜 <u>検査</u> 員	と畜 <u>監視</u> 員	誤記のため修正。
28 頁、下	英国及 <u>び</u> ドイツで大規模	英国で大規模なサンプリング	誤記のため修正。

から 21 行 目	なサンプリング実験が継続されている。また、英国では	グ実験が継続されている。 また、 <u>英国及びドイツ</u> では	
29 頁、10 行目	英国及び我が国の実験結果がある。__英国の感染実験では、	__英国及び我が国の実験結果がある。英国の感染実験では、	誤記のため、修正。
29 頁、9 行目及び 13 行目	<u>BSE</u> プリオン	<u>異常</u> プリオン	正確な表記に変更。
30 頁、1 行目	BSE 検査により <u>BSE 感染牛</u> が発見される可能性は非常に低いと考えられる。	BSE 検査により発見される可能性は非常に低いと考えられる。	正確な表記に変更。
31 頁、8 行目及び 33 頁、下 から 10 行 目	輸出 <u>プログラム</u>	輸出 <u>規制</u>	誤記のため、修正。
32 頁、9 行目	<u>輸入の対象となる出生証明可能な牛</u> は、	輸入 <u>規模の上限</u> は、	専門委員の指摘を踏まえて修正。
33 頁、下 から 14 行 目	米国及びカナダでの BSE の <u>暴露・増幅</u> を止めるには、	米国及びカナダでの BSE の増幅を止めるには、	正確な表記に変更。
33 頁、下 から 3 行 目	処理・分別過程において牛肉等が <u>21</u> ヶ月齢以上のものと混合され得る場合など、	処理・分別過程において牛肉等が <u>20</u> ヶ月齢以上のものと混合され得る場合など、	審議結果案に対して寄せられた意見を踏まえて修正。
参考文献	本文を精査し、参考文献を充実させた。		

注：上記以外に句読点、活字のフォントや誤字・脱字及び用語の説明に係る文言の整理を実施。